

2012 年度前期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 25 年 3 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目 次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英語 I	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語 I	椎野 美知子	演習	2
3	キャリアデザイン	向井 光太郎	講義	3
4	健康・スポーツ実習	大島 悠	実習	4
5	国語表現法	宮川 久美	講義	5
6	社会学	中田 奈月	講義	6
7	中国語 I	何 穎	演習	7
8	日本の憲法	竹村 和也	講義	8
9	フランス語 I	浅野 友子	講義	9

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
10	介護概論 I	笹谷 真由美	講義	10
11	介護予防	中野 正英	講義	11
12	家事支援の技法 I・被服	福田 満代	演習	12
13	グリーンプランニング I	寺田 孝重	講義	13
14	グリーンプランニング I	前川 良文	講義	14
15	社会福祉概論	富岡 郁子	講義	15
16	生活支援技術 I	武内 一泰	演習	16
17	生活レクリエーション	中西 信之	講義	17
18	点字・手話	森田 宏子	演習	18

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
19	カラーコーディネート論	中村 妙子	講義	19
20	食事療法実習	須谷 和子	実習	20
21	食品衛生学	池内 ますみ	講義	21
22	食品学実験	三浦 さつき	実習	22
23	人体の構造と機能 I	毛受 真由美	講義	23
24	調理実習Ⅲ	島村 知歩	実習	24

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
25	イラストレーション	松河 哲男	演習	25
26	CAD演習	松本 薫	演習	26
27	経理実務 I	佐藤 真理	講義	27
28	奈良の自然と文化 I	北口 照美	講義	28
29	日本経済とビジネス	佐藤 真理	講義	29

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
30	音楽 I (ピアノ)	奥田 尚子	演習	30
31	音楽 I (ピアノ)	玉井 奈摘	演習	31
32	音楽 I (ピアノ)	本間 晶子	演習	32
33	音楽 I (ピアノ)	和田 宏一	演習	33
34	音楽基礎演習 I (ソルフェージュ)	中島 倍代	演習	34
35	音楽 II	澤田 博	演習	35
36	社会的養護内容	山口 直範	演習	36
37	小児保健演習	安永 龍子	演習	37
38	相談援助の基盤と専門職	浦田 雅夫	講義	38
39	体育	村田 トオル	演習	39
40	保育課程論	中村 恵	講義	40
41	保育(表現・音楽 I)	大城(黒田) 弓恵	演習	41
42	保育(表現・音楽 I)	大西 有紀	演習	42
43	保育(表現・音楽 I)	宮田 眞理	演習	43
44	保育(表現・音楽 I)	山下 玲子	演習	44
45	保育(表現・身体表現 II)	石田 伸子	演習	45
46	幼児理解	片岡 三和	演習	46

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
47	コミュニケーションの基本	松岡 美穂子	演習	47
48	人体の構造と機能	中西 雅子	講義	48
49	人体の構造と機能	中村 麻子	講義	49

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8305b **授業形態** : 演習 **受講者数** : 33名 **回答者数** : 26名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	22	4	-	-	4	9	4	9	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.27											
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.81											
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.73											
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い 7.7%	やや多い 23.1%	適切 69.2%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -					
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.85											
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.19											
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.23											
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった		非常に高かった 15.4%	やや高かった 42.3%	適切であった 42.3%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -					
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.08											
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.27											
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.15											

1 授業の概要、特徴等

『生まれ変わるヨーロッパ』テキストとして、英語の語彙力を高め、英語で表現する力を養う。教科書の内容を理解し、ヨーロッパの歴史や文化に関する理解を深め、異文化リテラシー及び実践力として英語を捉え直す。英語を声に出して使うことを重ねて、かつ書く、読むを話すに繋げる。また、教室には大型液晶テレビ(正式名称?)が備えられることとなり、これまでのポータブル機器の再生とは格段の差で、より聞き取りやすい再生音声を実現できている。さらにはビジネスキャリアの学生との協働ワークにより、より多様な能力開発という意味を含め、教師の解説を随時画面に文字化するという手法など、実践可能としている。

2 アンケート評価結果に対する見解

たいへん熱心な学生が多くいたことは喜ばしく思った。が、一方で基礎力に不足する学生もいるため、如何に英文内容レベルを保ちながらかつ、難しいと感じている始めの受け止めに切り崩していくか、が課題である。そのためには語学的向上は、その扱う量と、費やす時間にそのまま正比例する。遅々とした歩みの先の達成感をより鮮明していきたい。常に英語でコミュニケーションする場面を大切にしていることを通して知る楽しさを今後の継続した関心・興味に繋がるよう欲する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業については、丁寧にノート整理等できている点からも一応の達成をみる。学生によれば、かなりの高得点を取るものもいる結果であり、文化理解についても各々意見を述べる事ができていた。試験70パーセント、平常点30パーセントで評価し、単位認定している。

4 授業改善の方法

自由記述において、英文の内容についての解説を求めるものがあつた。文の構造として、各パラグラフがトピックセンテンスそして、例証、具体という形式で展開している。できる範囲で日本語による解説を適度に入れたいとも考えている。但し、学習のなかでは、あくまでも英語による英語の理解の形を基本とする。英語1の学習経験の積み重ねにより、英語IIではより広く内容や文法レベルの説明は加えられると考える。受講生にレベルの差がある。両者が共に満足を覚えることは難しいが、学生の意欲、自覚をより牽引して行きたいと考える。おそらく難しいと受けとめていたであろう学生の、後期授業継続の意向はうれしいものである。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 椎野 美知子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 英語 I 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8305a 授業形態 : 演習 受講者数 : 47名 回答者数 : 42名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	42	-	-	-	5	16	1	20	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.05						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.20						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.76						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 14.3%	やや 多い 11.9%	適切 71.4%	やや 少ない 2.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	3.69						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.45						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.02						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 31.0%	適切 であった 47.6%	やや 低かった 2.4%	非常に 低かった 2.4%	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.36						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	2	3.45						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	2	3.36						

1 授業の概要、特徴等

授業の構成は、1. 相手に伝わる音声を出すための複式呼吸とアルファベットの発声練習 2. 息を使つての単語と単文の読み方の練習 3. 英語の詩の表現 4. 自作文のスピーチ となっている。特徴は、講義形式ではなく、全員参加の訓練形式をとっている事。

2 アンケート評価結果に対する見解

確かに騒がしい時もあったが、アンケートに書かれている程のことはなかったと思う。最大限の努力はしたつもりだが、あまりこの授業の目的は理解されなかったように思う。学生数や学生のレベルを考え、途中で授業内容を変えるべきだったかもしれないが、あきらめたくないという思いの方が強かった。内容を工夫して、もう一度チャレンジしてみたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は「発表」という形をとったが、7~8人以外はほとんど同レベルだったので、筆記試験も併せて行わざるを得なかった。授業への取り組み方を主な評価基準としていたので、座席を決めて全員の名前を覚え、不公平のないように配慮した。

4 授業改善の方法

本学の学生の目指す仕事を考えた時、コミュニケーション能力は最も大切かと思われる。私にできる事は、英語を通して学生のコミュニケーション能力をみがく事だと思っている。ただ、学生数やレベルを考えて内容を工夫する必要があり、日々、やり方と授業材料について考えている。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : キャリアデザイン **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8190abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 124名 **回答者数** : 112名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	111	1	-	-	18	32	-	62	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.99						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.04						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.75						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.7%	やや 多い 8.9%	適切 70.5%	やや 少ない 1.8%	とても 少ない -	無回答 0.9%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.49						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.15						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.48						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 8.0%	やや 高かった 19.6%	適切 であった 70.5%	やや 低かった 0.9%	非常に 低かった 0.9%	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.32						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.15						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.37						

1 授業の概要、特徴等

本講義は、教育理念「一、自律する人 二、自己と他者を尊重する人 三、事象に自ら関わる人」を在学中に行動で示し、卒業後の社会で同じく実践する素養を身に付けるために開講した。某企業経営者が実社会で役立つ能力として提唱する16の要素を各回の講義で解説し、対話や発言機会も作り情報共有機会の創出を心がけた。さらに、実社会で活躍する社会人による講義も一部取り入れ、働くことの意義や使命感の醸成を目指した。

2 アンケート評価結果に対する見解

概ね評価は期待通りだが、社会からのメッセージを解説する枠組みは難易度が高かったと感じるので、進路選択や就職活動に関わる情報を更に盛り込む工夫をしていきたい。一部、私語や遅刻に関しては「注意ではなく、解説」する方法で指導したが、気づいてもらえるよう仕向けたことで甘めの対応になった。聞く力や書く力と集中力にばらつきがあり、進度調整を数回実施したが、スライドの演出や編集に工夫が必要だった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本学の教育理念「一、自律する人 二、自己と他者を尊重する人 三、事象に自ら関わる人」になるために必要な力として、集中力、協調性、勤勉性、使命感、将来観の醸成を目標にした。その評価機会として、講義への出席回数、小テスト(プロフェッショナル意識についての見解)、講義態度、定期試験(自分の取り柄や強み、将来の進路に対する意気込み)に分けて客観評価を行い採点し、単位認定に結びつけた。

4 授業改善の方法

具体的な近未来の課題としての就職活動と就業に通じる課題に取り組むことと、卒業後の進路に関わる現状や必要な準備など、履修学生の集中力や義務感の向上にも貢献する内容に転換することも必要である。また、将来の進路に進むまでにやっておくことや持つべき考え方および社会で生きていくために身に付けておくべきマナーや所作の習得習も含めて、キャリアガイダンスとも連動するように通年形式で開講する必要があると考える。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 大島 悠 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 健康・スポーツ実習 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8255abc 授業形態 : 実習 受講者数 : 70名 回答者数 : 58名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	57	-	-	-	-	-	58	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.36						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.17						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.90						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 15.5%	やや 多い 3.4%	適切 81.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.59						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.47						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった 27.6%	やや 高かった 10.3%	適切 であった 58.6%	やや 低かった 1.7%	非常に 低かった 1.7%	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.50						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.45						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.53						

1 授業の概要、特徴等

多様な運動種目の経験を通して、基礎体力、運動技能を高め、スポーツ運動についての理解を深めることを目標に、履修している生徒に、学びたいスポーツ種目を選んでもらい、なるべく興味のあるスポーツを取り入れることで、積極的に生徒自らで授業展開できるように心がけた。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケート評価結果から多くの生徒が授業に対して満足していたことが伺えてよかった。自由記述に、「ソフトボールがしたい」と記述があったことに対して、もう少し生徒の要望を聞きつつ、屋外でのスポーツ種目も増やしていかなくてはと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

体育が苦手な生徒に対して、もう少し良い方法(アドバイスを、指導法)をして、苦手意識を少しでも減らす授業展開を今後検討したい。

4 授業改善の方法

月曜日のクラスは朝1限からということもあり、どうしても遅刻者や、授業をだらだら受けてしまう生徒が多かった。しかし、みんななんとか受講をしに来てくれたので、それだけでもありがたかった。生徒の声にもあったように「ひいき」の授業は決してよくないことなので、今後二度とないようにしたい。生徒全員に満足してもらえるような授業を心掛けたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 宮川 久美 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 国語表現法 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8110abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 83名 **回答者数** : 77名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	68	7	-	2	1	1	-	75	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.79					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.18					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.70					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 2.6% やや多い 13.0% 適切 83.1% やや少ない - とても少ない - 無回答 1.3%					
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.27					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.40					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.38					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 7.8% やや高かった 36.4% 適切であった 55.8% やや低かった - 非常に低かった - 無回答 -					
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.21					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.27					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.23					

1 授業の概要、特徴等

卒業必修科目である。国語表現の常識を確認することを目的とする。待遇表現・手紙の書き方、漢字の成り立ち・送り仮名・仮名遣いの基本・慣用表現等について、ワークをしながら気づいていないことに気づき、記憶を新たにする。

2 アンケート評価結果に対する見解

ほぼ満足してもらったのかと思うが、中に、「私は授業を聞いているとボーッと寝てしまう人なので寝ていたら起こして欲しかった」というのがあった。これは本来自分で気をつけていただきたい事柄だと思うがいかがだろうか。「もっと板書したい」というのは、学生に前に出てきてもらって答えを黒板に書いてもらったことを言っているのだと思う。たしかにみんなこの時とばかり元気に楽しく書いてくれたように思う。積極的に取り入れていきたい。教員の授業の進め方・わかりやすさ・熱意等すべての項目について、全く思わない、という最低点を付けた学生がいる。この評価から、私は、全く明瞭でない、全くわかりにくい授業をした、全く熱意のない授業をした、勉強する雰囲気が乱れないよう注意を全く払わなかった、と反省すべきなのだろうか。あるいは別のメッセージ(例えば私語や携帯電話の操作を注意したため非常に気分を害しているとか)を受け取るべきなのだろうか。一方で、わかりやすかった、満足だ、真剣に授業をしてくれた、という意見もあった。個別に意見を聞くと学生の個別のメッセージが伝わってくるのでそれなりに意味はあると思われる。しかし、平均の点数にどのような意味があるのだろうか。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

日頃のワークシートによって、まじめに授業に取り組んだかどうか評価した。また、確認テストを4回行い、待遇表現・手紙の書き方等、日常必要な国語表現の方法を学び得たかどうか、確認した。6割できていれば、今後日常生活の中で更に学びを積み上げていくことを期待して最低ラインながら合格点とした。

4 授業改善の方法

学生参加型の授業にすると、居眠りもしていられず、携帯電話の操作もしていられなくて良いのではないかと思った。ただ、多少騒がしくなるので注意が必要である。現状では、紙の辞書はほとんどの学生が持っていないので、図書館や手持ちの辞書を提供して調べてもらったり、携帯電話を用いて、ネット上の辞書に接続して調べさせたりした。このような手段で調べるのは紙の辞書よりも取り組みやすいようであった。事柄によって適不適があるが、紙媒体以外の調べ方にも取り組ませる必要がある。そのための方法を模索したい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中田 奈月 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 社会学 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8145 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 32名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	30	-	-	32	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.44	[Progress bar]					◇
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	5	4.34	[Progress bar]					◇
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.53	[Progress bar]					◇
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	とても 多い	とても 多い 6.3%	やや 多い 56.3%	適切 37.5%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.50	[Progress bar]					◇
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.28	[Progress bar]					◇
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.53	[Progress bar]					◇
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 40.6%	適切 であった 34.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.31	[Progress bar]					◇
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.59	[Progress bar]					◇
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.41	[Progress bar]					◇

1 授業の概要、特徴等

学生は、授業内で指示した論文を読みレジュメを作成、授業で報告する。事前に報告準備をし、授業担当者に提出、許可があれば報告できる。※授業では大学設置基準に明示されるとおり「一単位あたり45時間相当の学修」が必要である。つまり、毎週1時間以上のグループワークやパーソナルワークが時間外に必要な。

2 アンケート評価結果に対する見解

他の講義に比して恐らく課題が多い(大学設置基準内)が、負担感はあるものの、いまのところ課題をこなしている様子、満足度もそれなりに高かったと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・社会学の考え方を学び、社会学的想像力を身につけることを目標とする。そのために互いに意見交換をし、アイデアを出し合うことで、学びを深める。 ・成績は、学生による評価と教員による評価とで決定する。

4 授業改善の方法

表面的ではなく深い読解力を身につけて報告する準備をすること、プレゼンテーション能力を高めることができるよう、早い段階で強力に指導を行ってきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 何 穎 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 中国語 I 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8340 授業形態 : 演習 受講者数 : 31名 回答者数 : 27名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	27	-	-	-	3	5	-	19	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.74						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.74						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.48						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 3.7%	やや 多い 18.5%	適切 66.7%	やや 少ない 3.7%	とても 少ない 7.4%	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.44						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.65						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	3.77						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 51.9%	適切 であった 7.4%	やや 低かった 7.4%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.15						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.41						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.41						

1 授業の概要、特徴等

昨年と同様に、聞く話すを中心とする内容に決めました。従いまして、授業中におけるコミュニケーションを図ろうとしました。一人一人の学生に声の出し方から、発音の難易度を説明しながら、会話に導いた形式になります。簡単な語句でも、声だしなどの基本的な姿勢を重視する。

2 アンケート評価結果に対する見解

今年で三年目になる中国語授業ですが、例年の如く、安易に中国語を習得すると考えている学生が多数に見られるようです。前半がよく頑張っていたけど、進度により、途中で学習欲の減退で、放棄する学生は三分の一近くなります。もちろん、真面目に取り込んでいる学生も大勢います。今後も、学生の声をよく反映できるような内容改善していきたいと思ひます。特別にヒイキするつもりはないですが、よく勉強できて、意欲的に質問する学生に時間割りをしているかもしれません。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

語学の授業に出席すれば、単位を出すような雰囲気になりがちです。6回以下の欠席者にも最後に試験などに参加を呼びかけていました。(少し優しいかしら) 少しでも、中国語に対する興味を引き出したいし、中国文化にも関心を寄せてもらいたいです。

4 授業改善の方法

毎年、違う教科書を使用することが、教科書の購入と復習、予習に徹するように努めていますが、もう少し簡単明瞭の教材と映像資料を取り入れていきたいと思ひます。そして、毎回の板書を増やしていきます。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 竹村 和也 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 日本の憲法 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8135ab 授業形態 : 講義 受講者数 : 98名 回答者数 : 91名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	32	58	1	-	31	-	-	58	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.92					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.23					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.60					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 11.0% やや 多い 27.5%	適切 57.1%	やや 少ない 4.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.67					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.01					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.98					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 30.8% やや 高かった 39.6%	適切 であった 27.5%	やや 低かった 1.1%	非常に 低かった -	無回答 1.1%	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.80					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.13					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.05					

1 授業の概要、特徴等

憲法との関連において、将来的に市民として知るべき、私法及び公法の領域について、概略を学ぶことを目的とした授業であった。なるべく視覚教材を用いて授業を行うようにした。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業全体平均と比較して、当科目平均が低いということは反省を要すると思う。自由記述では、「面白かった」・「分かりやすかった」という記述と、「内容が難しい」・「もっと分かりやすい内容がよい」という記述が混在している。評価の差異は、おそらく生活未来課と地域こども学科の学生の差異に起因するものと推測するが、双方が満足でき、かつ理解しやすい授業を、困難であるが、考える必要がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

(客観問題を中心にした) 中間・期末の筆記試験にウエイトをおいて成績評価を行った。目標達成=単位認定についても、生活未来課と地域こども学科の間で大きな差異が発生している。

4 授業改善の方法

上の2及び3に関連して、生活未来課と地域こども学科を分けることが望ましいと思われるが、それが困難であれば、双方が満足でき、かつ理解しやすい授業を目指さなければならない。また、「声が分かりにくい」という記述があったことから、この点については留意して授業を行いたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 浅野 友子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : フランス語 I 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8330 授業形態 : 講義 受講者数 : 30名 回答者数 : 23名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	23	-	-	-	-	2	-	21	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.17						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.43						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.48						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	13.0%	82.6%	4.3%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.17						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.04						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.30						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			13.0%	39.1%	47.8%	-	-		
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.04						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.74						

1 授業の概要、特徴等

フランス語の表現を練習しながら、初級文法を学ぶ。辞書を持つことは要求していない。練習問題を多数こなすことによって、フランス語を身につけることを目指しているが、基本的に課題は授業時間中に完結するようにしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

課題は授業時間の範囲内で収まるようにしているので、予習・復習について、評価が低いのは当然と思われる。学生の理解度に配慮し、日頃からわかりやすい説明をこころがけているので、このことについては、学生にも理解されていると思う。ただ、どうしてもこちらの意の通じない学生がいる場合、教室内の雰囲気を保つことは非常に困難となる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

フランス語に関心を持ち、基本的なフランス語文を作れるようになったかどうかを評価の基準とする。授業中の態度、積極性も評価の中に入ってくるが、授業内容への関心と試験の結果とは深く関わっており、筆記試験の結果が評価の大きな部分を占める。

4 授業改善の方法

改善の方向としては、受講生の動機付けを保つことに尽きる。最初に授業を選択する時点では何らかの動機付けがあったのであろうが、学生の目指す資格・職業と直結しているわけではなく、数ヶ月して内容が難しくなってくると、ついていこう、わかろうとする気持ちを維持することが少々難しくなっていくように思う。その頃にさらに学ぼうとする意欲を持ってもらえるように、工夫を続けている。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 笹谷 真由美 職名 : 准教授 所属 : 生活未来科
 科目名称 : 介護概論 I 科目群 : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
 授業コード : 1205 授業形態 : 講義 受講者数 : 42名 回答者数 : 42名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	42	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.60						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.74						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.26						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 7.1%	やや 多い 16.7%	適切 71.4%	やや 少ない 4.8%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.48						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.48						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.52						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 23.8%	やや 高かった 38.1%	適切 であった 38.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.46						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.69						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.64						

1 授業の概要、特徴等

介護の歴史や介護福祉士の成り立ち等について講義形式で行い、また理解を深めるために適宜演習も行った。講義の際には、抽象的な概念を具体的に理解してもらえるよう、事例等を用いて説明した。また、初めて触れる用語等も多いため、プリントを毎回用意して学習しやすいように工夫した。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の評価は、おおむね平均より高く講義に対しても熱心に取り組んでいたことが伺える。授業を通して、内容に興味をもてたことも示されていたことは良かったと考える。自由記述の中で、「内容が濃く、スピードが早かった…」がみられ、学生によっては十分に理解することが難しい部分も感じられ、さらなる配慮が必要であると考えた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、介護福祉士の資格取得に向けての第一歩として、介護とは何なのか、どのような専門職なのかを理解してもらうことであった。この授業の中で概括的に学んだことを、これからの各論の中で理解を深める材料になればと考える。成績は、全体的には高い水準での合格が多かったが、社会人学生は概ね熱心に取り組んだことが結果につながったと考えるが、現役生の基礎学力の低下を実感した。

4 授業改善の方法

受講者の資質や背景が様々であり、どこに焦点を置いて講義をしていくのかを検討する必要がある。講義ばかりでは、現役生の理解は深まらないことも考え、「介護概論 I」における演習方法はやりづらさはあるが、さらに開発していくことが必要である。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中野 正英 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 介護予防 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1225 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 39名 **回答者数** : 33名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	33	-	-	32	-	-	-	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.27					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.33					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.81					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 6.1% やや多い 18.2%	適切 75.8%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.45					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.30					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.36					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 9.1% やや高かった 33.3%	適切であった 57.6%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.27					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.58					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.42					

1 授業の概要、特徴等

本授業は介護予防の知識を習得し理解を深めるために、介護保険法および介護保険法改正の背景についての説明を行い、介護予防事業の内容について毎回パワーポイントを使用して授業を行った。運動器機能向上事業を中心に地方自治体で開催されている実例をあげながら実施手順や成果などを紹介した。また運動指導をするにあたり、必要となる身体活動の基礎知識や高齢者の身体特性についても解説し、簡単な運動実技も指導した。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業は介護予防の概要と実際に地方自治体で取り組まれている事業の実例を解説した内容であったので、介護福祉士取得という目標をもった受講学生には興味がわき、理解しやすかったと考える。受講態度の項目の結果は、テキストを指定せず、特に課題を与えなかったためと考える。自由記述の内容は肯定的な意見も多く、こちらの熱意も伝わった結果と考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の到達目標は介護予防についての制度および内容を利用者の視点から理解することと介護予防について制度的背景と実態について理解することであった。成績評価は、出席を含む授業態度(40%)と期末の筆記試験(60%)をもとに100点満点で評価した。単位認定については両担当の評価をあわせて、60点以上を合格として単位認定した。

4 授業改善の方法

介護保険法や改正介護保険法など介護予防を知る上で理解しておく必要のある内容についてはより深く解説する。また受講生から希望の多かった体育館での運動体験も授業の進め方を検討して、気候が快適な時期に取り入れる方向で検討したい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 福田 満代 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 家事支援の技法 I・被服 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 39名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	36	-	-	38	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価																
				■ 学生の評価平均																
				1	2	3	4	5												
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.26																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.53																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.13																	
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>2.6%</td> <td>23.7%</td> <td>73.7%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	2.6%	23.7%	73.7%	-	-	-					
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
2.6%	23.7%	73.7%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.29																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.35																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.58																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>5.3%</td> <td>31.6%</td> <td>63.2%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	5.3%	31.6%	63.2%	-	-	-					
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
5.3%	31.6%	63.2%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.21																		
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.37																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.32																	

1 授業の概要、特徴等

健康的で快適な生活や社会的・文化的な生活を営むうえで重要な役割を果たす被服生活における生活支援の考え方と家事支援の知識や技術を習得する。介護を要する人たちが尊厳をもって、その人らしく暮らしていけるように支援するための技法の修得を目指すし、現場に出ても応用が出来るように、被服の役割・管理について学び、機能的で快適な衣環境を整える能力を身につける。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の評価を率直に受け止め、今後の課題とする。ただし、学生は実際的な実習を望んでいるが、多様でかつ、進化し、変化する被服材料や被服管理の実際、衣環境に関する知識を獲得することが、現実的な技術に並び重要であることを理解させたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成は課題の成果並びに期末筆記試験結果を総合的に評価する。成績評価と単位認定については、授業への取り組み、すなわち、出席状況・課題の解決・レポートの内容・実習作品の出来栄と、期末筆記試験を総合的に判断、評価し認定する。

4 授業改善の方法

このクラスは、6月に1か月間の介護実習を体験する。今後は、介護実習と本授業をより連携させるよう授業を展開させたい。実習では、介護を要する人たちがどのような衣生活を送っているか観察し、必要とされている支援が何かを発見し、後半、その支援を実践するための技術の習得へと繋げる。また、このクラスは受講生が多く、実技技術も一様ではなく現実的には実習の実施が非常に難しい。教材の検討、工夫を考えたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 63名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	54	5	-	-	39	18	-	1	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.31	[Bar chart showing student average at 4.31]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	5	3.37	[Bar chart showing student average at 3.37]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.38	[Bar chart showing student average at 4.38]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	とても多い 6.8% やや多い 8.5%	適切 81.4%	やや少ない 3.4%	とても少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.11	[Bar chart showing student average at 4.11]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	3.62	[Bar chart showing student average at 3.62]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.08	[Bar chart showing student average at 4.08]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 5.1% やや高かった 11.9%	適切であった 78.0%	やや低かった 1.7%	非常に低かった 1.7%	無回答 1.7%	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.98	[Bar chart showing student average at 3.98]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.20	[Bar chart showing student average at 4.20]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.14	[Bar chart showing student average at 4.14]				

1 授業の概要、特徴等

園芸福祉への理解を進めるため、園芸福祉論(講義)、園芸概論(講義)と圃場実習で講座を構成し、後二者を筆者が担当している。筆者分は講義と実習が混在するので、学生にとっては物珍しく、楽しく受講していると思うし、完全レポート式なので、興味のある人は質の高いものを出してくれている。

2 アンケート評価結果に対する見解

講義ばかりを持たれた前川先生より、楽しげな回答を得たのは、実習も担当し、植物の成長を観察するように誘導した為かと思うが、座学より外の方が楽しいのは学生の一般であり、その分良い所ももらっている感がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

レポート、実習共に評価できるものであった。特にレポートについては、5月以降質的に高くなり、植物を観察する目が育ったことを伺わせる。実習についても、諸般の事情から完全に定期的には行えなかったが、各自が自主的に水やり等の管理を行ってくれ感謝している。

4 授業改善の方法

現体制では難しいが、実習管理の意味から、私の講義日を一定間隔にし、間が飛ばないようにして欲しいと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 前川 良文 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 63名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	54	5	-	-	39	18	-	1	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.31						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.37						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.38						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	と ても 多 い 6.8%	や や 多 い 8.5%	適 切 81.4%	や や 少 な い 3.4%	と ても 少 な い -	無 回 答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.11						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	3.62						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.08						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非 常 に 高 か っ た 5.1%	や や 高 か っ た 11.9%	適 切 で あ っ た 78.0%	や や 低 か っ た 1.7%	非 常 に 低 か っ た 1.7%	無 回 答 1.7%	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.98						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.20						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.14						

1 授業の概要、特徴等

福祉と園芸を学び、人々に対する効果など素晴らしい魅力と草花や野菜など、植物の栽培管理をとおして多くの人々が心の安らぎや健康、生きがいを感じる園芸の特質を人々の生活の質を高める為の実習等を行い、障がい者や高齢者などの介護やリハビリのために積極的に活用する園芸療法や園芸福祉を具体的に学ぶとともに、福祉社会のニーズに応える産業人を育成します。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度についてはほとんどの学生は良かった。内容に対しては時間が少なくて少し詰め込んだ授業になってしまった。進め方については自己都合で日にち変更などで迷惑をかけてしまい反省しています。授業時間以外での質問も有り興味を持っている学生も多く、もっと時間数を増やし深く伝えたい事を希望します。総合評価で高い評価を得る努力をして行きたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度 20% 表能力 20% 筆記試験、レポート60% 事前学習が出来るような環境と流れを作りたい。

4 授業改善の方法

担当教員が二人はお互いに授業カリキュラムの調整が難しく学生アンケートにも有る様に趣旨が混乱している学生もいる。寺田先生と私では役割分担が出来ているにも関わらず伝わっていない様に思えるので検討が必要。相手を尊敬し信頼する社会人としての基本的マナーや身構え、心構えなどをしっかり持った人材教育とコミュニケーション力を身につける様に事例やワークショップを行い、伝達者でない自分の言葉と熱意で講義を行う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 富岡 郁子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 社会福祉概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 51名 **回答者数** : 44名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	43	-	-	1	39	-	4	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.50						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.80						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.14						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	と ても 多 い 9.1%	や や 多 い 15.9%	適 切 72.7%	や や 少 な い 2.3%	と て も 少 な い -	無 回 答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.45						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.50						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.55						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高 か っ た	非 常 に 高 か っ た 22.7%	や や 高 か っ た 36.4%	適 切 で あ っ た 38.6%	や や 低 か っ た 2.3%	非 常 に 低 か っ た -	無 回 答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.23						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.45						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.43						

1 授業の概要、特徴等

生活福祉コースで介護福祉士資格者を目指す42名及びビジネスキャリアコース4名を主なメンバーとした。また、再履修者(前回担当は前任者)の地域子ども学科数名を対象に開講されていた。特に、生活福祉コースにおいては、若年正規入学生と特別社会人が24名と過半数を占める集団であった。概論科目であるが、社会人の要求はさらに詳しい学びにあったように感じた。

2 アンケート評価結果に対する見解

この科目はシラバスにある通り、介護系科目の意味合いを多く含む。しかし、一部モチベーションの違うメンバーにおいては満足が得られなかったと推測される。概論という内容の多さから板書時間を避けたことから、プリント物頼り受講となったことも充実に欠けたものであったと後で分かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

概ねシラバスに掲げた目標について達成できた。単位認定に至らなかった理由は、欠席回数による受験資格消失及び、学力において甚だ理解力に欠けいたための試験の結果から不可とした。成績の基準となる筆記試験は、社会福祉における用語や事象について基本的な知識を身につける内容としたので、大多数は簡単な試験問題として受け取っていたようだ。

4 授業改善の方法

学生の理解を促進するようなテキストを選定する。就任時に希望したテキストの指定がなされず、教員ともども納得のいかないテキストとなったことが後悔である。話し方の改善として、ゆっくり話すことを心がける。板書すべきところは、プリント物にワークシート様式を取り入れ、ノートをまとめ、理解することが困難な学生のレベルに合わせる。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 武内 一泰 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生活支援技術 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1305ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 43名 **回答者数** : 42名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	42	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.71						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.43						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.48						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 11.9%	やや 多い 11.9%	適切 73.8%	やや 少ない 2.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.79						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.80						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.69						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.9%	やや 高かった 38.1%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.52						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.81						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.74						

1 授業の概要、特徴等

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得する学習を行う。・原理原則を踏まえた、基礎介護技術の習得が出来る様に、講義と演習を行う。・常に介護を受ける側の気持ちを考え、専門職として求められる知識、技術が理解できる様に、学生同士での演習を行い、お互いに受ける側、技術を提供する側の視点で学習を進めている。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートの自由記述にも、もっと実践回数を増やして欲しいや、自習時間をもう少し欲しい等の前向きな意見がみられました。今後の介護実習や就職といった今後のステップへのつながりが分かりやすい生活支援技術(介護技術)を習得する授業であるため、比較的熱心にみなさん取り組まれ、これからも前向きに学習していく意欲を感じる事が出来ました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

(This section is currently blank in the provided image.)

4 授業改善の方法

演習の授業なので回数をこなすことを希望される学生も多い中で、ベッドの数、授業時間、自習時間等ハード的な面での改善は難しいので、根拠と理論をしっかりと理解しながら効率よく演習ができる様な指導をして効率的な演習が出来る様にしていく。実習室の換気等アンケート結果にも見られた様に、気持ち良く学習してもらえる様に環境面にも気をつけて快適に演習していただける様にします。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中西 信之 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生活レクリエーション **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1220ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 39名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	37	-	-	38	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.66						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.74						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.26						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 7.9%	やや 多い 5.3%	適切 86.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.84						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.87						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.84						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 7.9%	やや 高かった 21.1%	適切 であった 71.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.76						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.74						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.82						

1 授業の概要、特徴等

この授業では生活とレクリエーションのかかわりとレクリエーション支援者としての実践を磨くよう配慮しております。特に領域介護の分野での「介護の基本」として位置づけられておりますが、実践力を磨くという意味では授業後半に実践力を視点とした授業展開いたしております。具体的には前半レクリエーションの概念や基礎を学習。福祉とレクリエーションの理解。後半福祉現場でのレクリエーションのあり方をベースに実践型トレーニングという特徴で実施いたしております。

2 アンケート評価結果に対する見解

このたびのアンケート結果に関して学生からの高い評価を受けていることに授業内容に対する裏づけであるかと思っております。私ども日頃より感じているのがやはり実践力であると考えております。今後もアンケート結果を真摯に受け止め、改善できるところは改善してゆきたいと思っております。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

特殊性の科目となりますので授業目標をとらえた場合、授業内の目標達成というより実習など現場での実践が問題であると思っております。評価としては演習と実践を評価としております。実習などでのレクリエーション実践を絡めるとより正しい評価ができると確信いたしております。

4 授業改善の方法

カリキュラムを組み立てる上で、中間地点でのレク実践は毎年ながら困難さが感じられました。今後生活でのレクリエーションのあり方を再検討し、改善として実践力の達成に力点を置くべきかと思っております。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 森田 宏子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 点字・手話 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1256a・1257a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	11	-	-	12	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.83						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.33						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.75						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 8.3%	やや 多い 25.0%	適切 58.3%	やや 少ない 8.3%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.42						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.25						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 8.3%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 41.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.33						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.25						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.50						

1 授業の概要、特徴等

点字は文学文化の一つで、6点配列・数学等は世界共通である。すべての日本語・数学・アルファベット、よくつかわれる記号類を正確に読み書きできるように、又社会の中ですぐ対応できるように特に読むことのできる知識を取得することを目的としている。透明の点字シールを貼り付け身近なものに、郵便物の取り扱いについても触れる。ビデオ観賞の時間を設け、視覚障害者についての理解を求める。

2 アンケート評価結果に対する見解

8回の時間内に課題どおりすべて取り組んだので、ハードだったと思いますが、時間を重ねる毎に興味を持ち、質問も多く出てくるようになり、授業は気持ちよく進める事ができました。無駄口や居眠りも殆どなく、良い授業であったと思っています。視覚障害者、ガイドヘルパーの方も一度だけでしたが受講され、有意義でよい体験だったと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

点字は「難しい」という言葉を何度か耳にしていたが、授業の始めには、前回の御浚いの時間を設けていたので一応目的は達成できたと思っている。出席状況や学習態度、提出物などで判断し、最終的に試験で評価した。試験により、正確な点字文や墨点字文の読み、簡単な文章や語句の点訳等の状況をみて決定した。

4 授業改善の方法

点字と手話で8回ずつというのは、かなりハードだったと思います。許されるのであればAクラスBクラスまとめて1クラスにして15回にしても良かったのではないかと感じました。日本の点字はかな文字体系である為、語の区切りを明らかにして誤解のないようにする。そのため簡単な分かち書きやレイアウト程度までは進めれば良いと思った。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : カラーコーディネート論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2430 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 49名 **回答者数** : 39名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	34	3	2	-	2	29	5	1	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.44						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.13						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.28						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 15.4%	やや 多い 25.6%	適切 48.7%	やや 少ない 5.1%	とても 少ない 2.6%	無回答 2.6%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.67						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.03						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.32						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 15.4%	やや 高かった 41.0%	適切 であった 38.5%	やや 低かった 2.6%	非常に 低かった 2.6%	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.82						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.08						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.95						

1 授業の概要、特徴等

色彩は、心理、光学、工学分野と幅は広いが、生活に基点をおいて基礎から教えている。“なぜ色が見えるのか”という基本的なところから、色の表示方法や色体系について教え、色をシステムティックに捉えることのできるように色体系表を見せながら理解させている。また、色の組み合わせ方では、実際に色票を使って演習をし、学生の視覚から訴えるようにしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

レベルは、半分以上が“やや高かった”、“非常に高かった”を占めていたので、理論的な部分の教え方の工夫は必要と感じた。居眠り、遅刻も少なく、課題は、真面目に取り組んだ学生がほとんどであったが、予習、復習をした学生が少なかったため、自ら学ぶ姿勢が培えるように授業内容を検討したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

色彩の基礎力を養い、色彩に意識を向け、自分の力によって色を使い分けることができるようになることを目標としている。デザイン帳で、理論の裏付けや演習課題をおこなっているので、デザイン帳を持って評価をし、平常点と加味して単位認定をしている。

4 授業改善の方法

理論的な部分を如何に分かりやすく説明していくかを検討していく。また、色票を用い切り貼りを行いながら演習を行うと、早い学生、遅い学生と時間的な差が出るので、どのあたりに基準をおいて授業を進めて行くのか工夫が必要。また、理解の遅い学生を授業内でどのように配慮していくのかも課題である。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食事療法実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2195 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 27名 **回答者数** : 26名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	26	-	-	-	26	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.38	[Bar chart showing student average at 4.38]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.88	[Bar chart showing student average at 2.88]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.08	[Bar chart showing student average at 4.08]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				-	-	96.2%	3.8%	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.35	[Bar chart showing student average at 4.35]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.31	[Bar chart showing student average at 4.31]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.27	[Bar chart showing student average at 4.27]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
			-	11.5%	88.5%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.23	[Bar chart showing student average at 4.23]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.54	[Bar chart showing student average at 4.54]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.31	[Bar chart showing student average at 4.31]					

1 授業の概要、特徴等

食事療法論と連動して各病態別に食材の選択、分量、調理方法を理解し制約がある中で美味しい治療食を作ることを目的としている。栄養士免許取得後の就職先はさまざまで、保育園から介護福祉施設に至るまで、あらゆる場面で実践力を試されることが多い。従って一回の授業で1病態のことがマスターできるよう内容を設定している。今年度は、特に保育園での学外実習で課題として出されるアレルギー対応のおやつに重点をおき、2回の実習を行った。前年度と同様、費用面で許す限り腎臓病食の特別な食材は取り寄せて、知ってもらうように心がけた。

2 アンケート評価結果に対する見解

「食」に対して違った角度から実習を行うことで、学生の視野も広がったのではないかと考える。「減塩」や「カロリーを抑えた食事」をテーマにしている授業時のレシピを「給食管理実習」の献立にも上手く取り入れてくれていた。科目間の垣根を越えた真の応用になっており、予期せぬ効果があったと考える。次年度に向けて、現場でのニーズをより把握し、実習に取り入れていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習終了後に必ずレポートを提出してもらった。病態にまつわること、自分ならどんなメニューを取り合わせるか、アレルギー対応の実習時には献立作成も課題にして取り組んでもらった。成績については授業態度50% レポート提出50%として評価した。学生が実習に取り組む姿勢、課題提出状況は相対的に良好で、授業しやすい環境であった。

4 授業改善の方法

現場で必要とされる技術や知識を定着させるためにも、学外実習で出される課題と上手く絡めて学生に指導したい。説明の部分の更なる充実をはかること、食事療法論の講義内容とできるだけ並行して進められるようにしていきたい。普通食から糖尿病食や腎臓病食への展開など応用ができるような授業にするのが理想である。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 池内 ますみ 職名 : 教授 所属 : 生活未来科
 科目名称 : 食品衛生学 科目群 : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
 授業コード : 2160 授業形態 : 講義 受講者数 : 27名 回答者数 : 26名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	25	-	-	-	25	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.19						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.77						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.77						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い -	やや 多い 7.7%	適切 84.6%	やや 少ない 7.7%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.27						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.35						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.31						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 3.8%	やや 高かった 34.6%	適切 であった 61.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.08						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.38						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.19						

1 授業の概要、特徴等

栄養士資格必修科目であり、栄養士業務を遂行するためにも十分な知識を修得しておくことが必要な科目である。特に2001年に日本国内で牛海綿状脳症(BSE)が発生してから食品の安全性について関心が高まり、食品安全基本法が制定され、食品安全委員会が設置される等近年は様々なトピックにより注目される事項が毎年のように出てきている。

2 アンケート評価結果に対する見解

若い学生にとっては食の安全性に対しての興味が十分もてていないことも考慮しなければならないと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

専門用語等覚えなければならない事項も多く、必要事項が十分修得できているか不安な学生も見受けられる。

4 授業改善の方法

学生が自分にとっても身近なこととして捉えられる工夫が必要と思われる。授業時間外に課題を出すことは少ないが、新聞、インターネット等で食の安全性に関わる事件などをさせることで関心を持たせることも必要かと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 三浦 さつき **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品学実験 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2155ab **授業形態** : 実習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 33名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	33	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.94					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.66					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.97					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	とても 多い 18.2%	やや 多い 42.4%	適切 36.4%	やや 少ない 3.0%	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.24					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.39					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.15					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 12.1%	やや 高かった 54.5%	適切 であった 27.3%	やや 低かった 3.0%	非常に 低かった -	無回答 3.0%
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.97					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.88					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.94					

1 授業の概要、特徴等

1回生必修の専門科目であり、初めての実験の授業ということで、pHや比重、滴定など基礎的な知識や概念の理解、基本的な実験操作の習得を目指して授業を行っている。後半では、身近な食品試料を用いて、実際に役立つような内容や、食品科学で学ぶ事柄とリンクした内容で展開している。翌週に実験内容をまとめて考察したレポートを課題として提出させている。

2 アンケート評価結果に対する見解

これまで、ほとんど実験をしたことがない学生もいるため、予習を呼びかけているが、②予習・復習をしたかどうかについては、特に低い結果であった。ただし、課題として、レポート課題を課しているため、復習は各自でできていると思われる。その課題については、④の課題の量や内容について、やや多いという回答が多くなっており、⑧の授業レベルについてもやや高かったという回答が多かった。学生にとってはやや難しい印象であったようであるが、理論で学んだことを実験で検証し、理解につなげる意味では、ある程度のレベルの授業内容と課題設定は必要と考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスの提示どおりに、授業態度や課題レポート、筆記テストなどによる成績評価を行っている。15回を通して、学生の理解度は高まり、課題レポートの内容も充実したものになっており、目標はほぼ達成できていたのではないかとと思われる。

4 授業改善の方法

学生を半分に分けて、調理実習との入れ替えで授業を開講したため、後半での授業を受ける学生の集中力が持続しにくい様子が見られた。来年度からは、時間割での配慮に加え、授業の展開についても工夫をしたいと考える。レポート課題について、期限を守って提出できない学生が多かった。授業の説明時にもレポート課題について説明の時間を設けているが、よりわかりやすく説明し、提出するための働きかけや個別指導など、さらにするようにしたいと考える。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 人体の構造と機能 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 32名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	32	-	-	-	-	32	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価															
					■ 学生の評価平均															
					1	2	3	4	5											
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.16																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.81																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.52																	
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>3.1%</td> <td>12.5%</td> <td>81.3%</td> <td>3.1%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	3.1%	12.5%	81.3%	3.1%	-	-					
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
3.1%	12.5%	81.3%	3.1%	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.25																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.19																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.16																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>15.6%</td> <td>34.4%</td> <td>50.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	15.6%	34.4%	50.0%	-	-	-					
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
15.6%	34.4%	50.0%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	-	4.26																		
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.03																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.13																	

1 授業の概要、特徴等

基本的な人体解剖と生理学を学ぶことを目的としている。名称を暗記するだけでなく、細胞レベルのミクロの世界や器官と器官のかかわりを学ぶことで、「ヒト」という一個体の成り立ちとしくみを理解する。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講生全員が基本的なからだのしくみを理解することを目標として授業を進めた。一部学生にとっては物足りなく、また逆に一部学生にとっては難しく感じられたかもしれない。全体に向けた講義では個々のニーズを満足させるのには限界があるので、授業中、授業後に積極的に質問を投げかけてくれることを望む。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単位認定の基準は授業に真面目に参加していることと基本的な事項の暗記ができていることとした。優評価の基準は基本の暗記+人体のはたらきについて理解し説明できることとした。いずれも学期末のペーパーテストでおこなった。

4 授業改善の方法

授業中に個別でも質問できるチャンスができるよう、プリントワークの時間をもう少しふやしたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 島村 知歩 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 調理実習Ⅲ **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2265 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 27名 **回答者数** : 27名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	25	1	1	-	26	-	-	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.41	[Bar chart showing distribution]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.30	[Bar chart showing distribution]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.19	[Bar chart showing distribution]					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	4.59	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答
				-	11.1%	88.9%	-	-	-
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.59	[Bar chart showing distribution]					
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.70	[Bar chart showing distribution]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.56	[Bar chart showing distribution]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	4.52	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答
			-	14.8%	85.2%	-	-	-	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.52	[Bar chart showing distribution]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.52	[Bar chart showing distribution]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.56	[Bar chart showing distribution]					

1 授業の概要、特徴等

1回生開講科目「調理実習Ⅰ」「調理実習Ⅱ」で身につけた知識と技術を基に実施する調理実習である。日本料理の行事食や郷土料理をはじめ、中国料理、西洋料理も旬の食材や行事にちなんだものなどを取り上げる。理論に基づいた調理技術を確実にすることだけでなく、食事に欠かせない飲み物や提供方法なども合わせて学ぶ。できるだけ、様々な食材を使用することにより、学生がより食に関心をもち、応用の幅が広がるように多くを経験させることを重視している。

2 アンケート評価結果に対する見解

(受講態度) 全体に遅刻欠席も少なく、説明から調理まで積極的に主体的に取り組んでいた。学生たちが回答している通り、課題等にも熱心に取り組んでいた。昨年度までの実習とは異なり、料理の仕上がり時間や盛り付け、作業の分担など配慮できる事柄が多くみられ、少しの促しで一番良い状態で試食ができるようにと心がけ実施していた。レポート課題についても、指定された部分以上に個々が疑問に思ったことまで調べたり、わかりやすくまとめたり、まとめた後に実習と絡めて考察をいれたりとして学生によって差はあるが、知識を充分自分のものにしていくなどと思われる部分が多くあった。(授業の進め方) 授業内に食文化や食材のことはできるだけ学生と共に情報を共有したいという気持ちから、説明時にも学生とコミュニケーションをとり伝えるだけで終わらないように配慮した。学生の反応をみたり、ペースを確認しながら進行していたので評価にもつながったと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生たちの理解度は毎回の実習後に提出しているレポートで評価していた。学習の要点という資料を配付し、各回これだけはこの知識は各人が説明をきいて記入したり、調べて記入したりできるような仕組みにした。技術については、実技試験を入れることで確認をした。

4 授業改善の方法

学生の評価の中でも予習・復習については「どちらとも言えない」という選択が多かった。実習内容については事前に知らせているが、材料等の関係で順番が入れ替わることもあった。実習に自信がない学生の中にはグループのメンバーに迷惑をかけたくないことから予習をしてきたいという気持ちを持っている者もいる。料理を作るだけが目的ではないが、実習時間内に説明・実習・試食・片付けが無理なく余裕をもって行えるようにも、学生たちが予習をしてこれる仕組みをつくっていききたい。授業内容については、同じ授業でも学生の食の経験は全く異なるので学生の状況を見ながらより充実した内容にしていきたいと考える。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 松河 哲男 職名 : 非常勤 所属 : 生活未来科
 科目名称 : イラストレーション 科目群 : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
 授業コード : 3435 授業形態 : 演習 受講者数 : 7名 回答者数 : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.40						◇
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	5	3.80						◇
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.00						◇
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	-	80.0%	20.0%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.40						◇
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.80						◇
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.40						◇
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	20.0%	80.0%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.20						◇
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.40						◇
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.40						◇

1 授業の概要、特徴等

この授業の目標は社会におけるグラフィックデザインの有用性と利便性を学びながら、その技術を身に付けることであるが、そのこと以外にそれがどの程度身についたか、実践することによって今後の社会生活に生かすことである。実践①二科展デザイン部のB部門(イラスト)に出品すること。実践②産経新聞社主催ポストデザイン大賞に出品すること。

2 アンケート評価結果に対する見解

ほとんどの回答が、そう思うか・ある程度思うということから、学生たちの真面目さが表れていると思う。今後、良い指導者のもと才能を伸ばしていければ将来有望である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

①二科展デザイン部のB部門(イラスト)に出品すること。②産経新聞社主催ポストデザイン大賞に出品すること。これらの目標に真剣に取り組む出品がどの程度できるかが成績評価となる。今回は結果として、入選者1名保留1名準入選3名という優秀な結果であった。

4 授業改善の方法

今年以上に、新たな描写テクニックが身に付けるよう授業内容を工夫したい。その方法として、造形を増やそうと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 松本 薫 職名 : 非常勤 所属 : 生活未来科
 科目名称 : CAD演習 科目群 : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
 授業コード : 3427 授業形態 : 演習 受講者数 : 5名 回答者数 : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.60						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	4.00						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	4.60						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 40.0%	やや 多い -	適切 60.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	2	4.40						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.80						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.20						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 40.0%	やや 高かった 20.0%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.80						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.80						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.60						

1 授業の概要、特徴等

コンピュータを使った設計や描画を学ぶ授業になります。授業はPCを用いたハンズオン形式での授業になり、提出物もデータで提出してもらっています。設計に関する作業はもちろん、作業工程で発生する様々な操作はPCを使う上でのコツや常識を身につけるのに間接的に役立つと考えています。

2 アンケート評価結果に対する見解

想定していたより全体的に高いと感じました。この授業は具体的に社会に出て役立つかというところは言い切れない上、どちらかという自由度の低い作業が多いのでそれが授業を退屈に感じさせ評価を下げるのではないかと感じたためです。しかし授業を見ていると生徒は案外決められた工程を決められた手順でやるほうに楽しさを感じているようでした。そういう意味で評価が高くなったのかもしれない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績の評価基準は提出物に重きを置いていますが、提出物自体の評価というのは〇×では出せない内容なので正当な判断というのは難しく感じています。また年度により学生の性質が若干違いますがどうしても相対的な評価になってしまうのは避けがたく感じています。そんな中ですが学生が普通に授業を受ければ単位を落とすようなことにならないような目標を設定をしています。

4 授業改善の方法

2から考察すると自由度を高くするよりはマニュアル的に道順をはっきりさせたほうがいいのかと思います。その上で余裕のある学生には創造性を発揮できるような課題を与えるのが良いかと考えています。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 佐藤 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3160 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.20						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.60						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.60						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 20.0%	やや 多い 20.0%	適切 60.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.40						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.60						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.20						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 20.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.60						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.40						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.20						

1 授業の概要、特徴等

・前期は、仕訳などの複式簿記の基本を中心に、講義を行った。 ・学生の興味や理解度に合わせて、その場で問題を作成したり、プリントを配布したりしたが、できる学生とできない学生との差が目立った。 ・また、単なる知識の習得だけでなく、実際の企業ではこれらの知識がどのように活かされているのかを理解してもらうべく、私自身の経理部時代の経験を極力まじえるように努めた。 ・総じてモチベーションは高かったが、高校の延長で授業に対して受け身の姿勢で臨む傾向があったため、毎回1度は発言させるようにして、自主性の育成にも配慮した。 ・特にやる気のある学生に関しては、日商簿記検定3級受験に備えて、今後もフォローしていきたい。

2 アンケート評価結果に対する見解

・概ね、納得のいく評価であった。 ・板書の文字が見にくいという点については、改善していきたい。 ・できる学生とできない学生との間で、満足度に差が出ているように思う。後期は、双方に配慮した講義を行ってきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・仕訳などの複式簿記の基本については、概ね理解してもらったと思う。 ・テストの成績も、想像通りのものであった。 ・脱落してしまった学生がいたことは残念である。授業内では他の学生を待たせるわけにもいかないため、個別のフォローが必要だったように思う。

4 授業改善の方法

・後期は、前期の講義についていけなかった学生が、さらについていけなくなる可能性がある。授業内で他の学生の足を引っ張らないよう、個別に指導していきたい。 ・また、相互に教えあう雰囲気づくりを心掛け、協調性の育成も行っていきたい。 ・モチベーション継続のため、日商簿記検定3級受験も視野に入れて、指導していきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 奈良の自然と文化 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3325 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 43名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	34	3	-	1	2	20	6	8	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.55						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.42						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.89						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 2.6%	やや 多い 21.1%	適切 65.8%	やや 少ない 7.9%	とても 少ない 2.6%	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.51						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.79						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	3.73						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 2.6%	やや 高かった 34.2%	適切 であった 55.3%	やや 低かった 5.3%	非常に 低かった 2.6%	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.38						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	3.84						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.68						

1 授業の概要、特徴等

奈良は、日本の都(平城京)がおかれてからの1300年の歴史を持ち、世界的にも有名な地である。この奈良にある本学で学ぶ学生に、歴史ある奈良の自然と文化の魅力は少なくとも教養として身につけること、さらには奈良の歴史文化を継承することを意識し、自分の生活と共に地域の発展につなげることを目指して講義している。各自のテーマでレポート作成し、発表する(数名)ことで、奈良のことを一つだけでも、より掘り下げて学ぶことを目指している。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体的評価は高いとはいえないが、自由記述には奈良のことが良くわかったとの意見も多く、受講生の興味の程度の差が、受講への姿勢にも現れていると感じられる。「ゆっくり授業して欲しい」との意見については、1時間に1のテーマとしているが、その内容も、もう少しを絞るべきであった。多くの学生はレポート課題にまじめに取り組んでいたと評価できる。これは、学生による評価の受講態度もきちんと取り組んだと回答されたことと一致している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

各々に自らのテーマでレポートを課したことで、大多数の学生はある程度の知識を身に付けた。ただ、継承や地域での発展についての視野で考える学生は、少数ではあったがよい視点でまとめたことは高い目標を掲げた成果であるといえる。知識を身につけたことについては、まず第一歩としての目標は達成できており、評価できると考えている。

4 授業改善の方法

実際の体験が必要との意見があるが、基礎教養科目であり多学科からの受講では学外授業は難しく、見学は重要文化財建物である奈良女子大学記念館のみであった。改善としては、スライドや本だけではなくより多くの実物を見せること、また、学生自身に調査・発表させることで、意識を高めることが出来ると考えている。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 佐藤 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 日本経済とビジネス **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3190 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	5	-	-	-	-	6	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価															
					■ 学生の評価平均															
					1	2	3	4	5											
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.83	[Progress bar from 1 to 4.83]																
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	1	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]																
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	-	4.83	[Progress bar from 1 to 4.83]																
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>33.3%</td> <td>16.7%</td> <td>50.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	33.3%	16.7%	50.0%	-	-	-	[Progress bar from 1 to 3]				
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
33.3%	16.7%	50.0%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.50	[Progress bar from 1 to 4.50]																
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.50	[Progress bar from 1 to 4.50]																
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50	[Progress bar from 1 to 4.50]																
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>33.3%</td> <td>33.3%</td> <td>33.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	33.3%	33.3%	33.3%	-	-	-	[Progress bar from 1 to 3]				
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
33.3%	33.3%	33.3%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.50	[Progress bar from 1 to 4.50]																	
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.50	[Progress bar from 1 to 4.50]																
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.33	[Progress bar from 1 to 4.33]																

1 授業の概要、特徴等

・前半は、経済学のテキストを用い、日本経済やビジネスを理解する上での基礎教養について講義を行った。・また、学生からの要望により、適宜新聞の切り抜き記事の解説を加えた。・しかしながら、座学では理解度に限界があると感じたため、後半は、ビジネスプランを作成するという実学的体験を通じて、経済の仕組みを肌で理解してもらうように尽力した。

2 アンケート評価結果に対する見解

・アンケート評価は良かったようだが、実際に身についたかどうか、やや疑問に感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・総じてモチベーションが低く、一部の学生のみが頑張っていたように感じた。理解度も、各自の頑張りや努力に比例していたように思う。・ビジネスの基本や難しさは理解してもらえたため、全員に単位を認定した。・しかしながら、当初の目標であった、「経済学の知識をベースに日本経済やビジネスのしくみを理解する」ことに関しては、達成できたかどうか、疑問である。

4 授業改善の方法

・来期は、座学を一切やめ、ビジネスプランの作成とそのために必要な知識の習得に力点を置き、経済の仕組みを肌で理解する講義にしたいと考える。・モチベーション向上のため、可能であれば、作成したビジネスプランをベースに実験店舗(近隣商店街の空き店舗などを使って)のようなことを実施し、フィードバックできればと思う。教務の方々ともご相談しながら、検討していきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I (ピアノ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55303ab・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	10	1	-	1	-	-	-	11	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.33						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	4.33						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.08						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 8.3%	やや 多い 16.7%	適切 66.7%	やや 少ない 8.3%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.58						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.42						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 低かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.42						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	-	4.42						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.42						

1 授業の概要、特徴等

EPと個人レッスンに分けて授業する EPでは伴奏付けと 歌うことを行い 又個人レッスンの手助けをする パーナムで 基本的なテクニックから 表現に必要なテクニックまでの基礎を身につけさせる ケーラーの曲を通して表現し 丁寧に曲を仕上げていくようにする

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートは個人レッスンに対するもので 曲数が少ない分頑張っ弾かなくては遅れてしまうと 結構頑張っ取り組む学生が多く その取り組み姿勢が表れた結果と思う

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初心者については 概ね今年度採用のテキストで 頑張っているように見えるが 皆同じ曲なので 聞き覚え 教え合いでいいようだ 又おべんとうの試験をした結果 例年より 弾けない学生が多く驚いた 去年までの間違わないで弾くを 辞めたためつめの甘い弾き方が 多かった為 合格のレベルは下がってしまった

4 授業改善の方法

EPの伴奏付けの課題が前期で終わったため 後期はEPの活用を考えたい 個々の練習では 弾ける子に限って別の曲を弾いて遊んでいたり パーナムを練習してこず 初見で弾いて済まそうとする風潮があり、各先生の間で問題になっていた パーナムの説明をEPですてどうか とEP担当で話しが出た

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I (ピアノ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55303ad・bc・cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	1	1	-	-	-	-	16	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.69						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.13						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.13						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 25.0%	やや 多い 6.3%	適切 68.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.75						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.50						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.63						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった 31.3%	やや 高かった 18.8%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.50						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.31						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.25						

1 授業の概要、特徴等

以下の3冊を使用し、色んな角度から知識・技術の向上をはかる。 パーナムピアノテクニック…ピアノ演奏に必要なテクニックを学ぶ ケーラー「こどものおともだち」…音楽表現を身につける こどものうた200…弾き歌い(両手演奏+歌を最終目標とする)

2 アンケート評価結果に対する見解

毎年、改善点として挙げられる②の「予習、復習について」は、課題によってやや偏りが見られ、3冊中パーナムに関して中頃より手が回らなくなる学生が多かった。⑧の「授業のレベル」は併用している曲集のレベルが少し高く、時間内にこなさなければならぬ内容も多かったため、半数が「適切であった」と回答している点は驚きであったが、⑪の全体平均を見てもこの授業に対してそれなりの評価を貰えたことは良かった点であると思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲数をこなさなければならないが、通年での設定であるので、前期芳しくなかった学生は後期取り組み曲数を増やして目標達成を図りたい。成績評価については試験点が大きく影響するが、試験点は曲の仕上がりに対する10段階評価によるものであり、そこに平常点や出席率などを加味した成績を算出している。

4 授業改善の方法

今年度より授業内容が大きく変わり、学生の反応や成果にとっても不安を感じていたが、全体的によく取り組んでいた。担当したグループは全くの初心者が大半であったため、一人当たりの決められた短いレッスン時間の中で、いかにして効率よく進めるか、理解度を高めてもらえるかが後期授業への課題である。また課題曲数(弾き歌いと併用曲集の割合も含め)の見直しや、各々に合った課題曲を提示できるように努めたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I (ピアノ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55303bd・cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.31	[Progress bar]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.00	[Progress bar]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.77	[Progress bar]					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	と ても 多 い	や や 多 い	適 切	や や 少 な い	と て も 少 な い	無 回 答	
			-	46.2%	53.8%	-	-	-	
授業の 進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.77	[Progress bar]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.69	[Progress bar]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.54	[Progress bar]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非 常 に 高 か っ た	や や 高 か っ た	適 切 で あ っ た	や や 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
		-	53.8%	46.2%	-	-	-		
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.46	[Progress bar]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.25	[Progress bar]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.46	[Progress bar]					

1 授業の概要、特徴等

「バーナムピアノテクニック I」「ケーラー：こどものためのアルバム」「こどものうた200」を教材とし、45分のグループ学習プラス個人レッスンで構成される。グループ学習では、楽譜の内容を確認し、練習方法、発声、和音伴奏方法等を学ぶ。更に、個人レッスンで演奏を仕上げるべく指導が行われる。各個人の進度に合わせた、きめ細かい指導が可能である。

2 アンケート評価結果に対する見解

「与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組みましたか」との設問に対する回答結果が残念だ。ピアノ実技教科ゆえ、レッスン時間外の日頃の取り組みの甘さは致命的である。ただ、「もっと練習するべきだった・・・」の気持ちも読み取れ、期待したい。また、教員の熱意が、こちらの自覚ほどは伝わっていないことが残念であり、今後、学生との接し方に一考を要する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育現場で実践できるように必要なピアノの基礎技術を獲得し、初級ピアノ曲を表情豊かに演奏したり、こどものうたを弾き歌いする方法を学ぶことを授業目標としている。目標達成として、1年間に、ピアノ曲5曲以上、ひきうたい7曲以上を仕上げることを課す。その上で、最終週に実技試験を行い、その試験結果に平常点、達成点を加え、成績評価基準とする。

4 授業改善の方法

今年は、授業内容を一新した初年度である。ピアノ奏法の基本を指導して身につけさせ、各学生が、それを楽曲演奏に応用してゆけるよう、授業を進めなくてはならない。限られた授業時間内に、将来にわたって役立つ力をたくわえさせるには、「応用力」と「自発性」を育てる必要性を強く感じる。そのためにも、学生の不断の努力を喚起したい。その結果として備わった実力を学生自身が自覚できるよう、力を尽くしたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 和田 宏一 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I (ピアノ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55303ae・be・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 21名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	1	-	1	-	-	-	19	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.37						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.68						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00						
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	21.1%	73.7%	5.3%	-	-	
授業の 進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.32						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.58						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.42						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
		5.3%	36.8%	52.6%	-	-	5.3%		
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.22						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.84						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.05						

1 授業の概要、特徴等

シラバスにもあるように、保育現場で実践できるように必要なピアノの基礎技術を獲得する、こどもの歌を弾き歌いする方法を学ぶ、ということを目指してピアノの実技指導を行う教科である。授業は、個人レッスンとEP教室によるグループ授業が45分ずつ行われる。和田は今年度、音楽 I においては個人レッスンのみを担当している。

2 アンケート評価結果に対する見解

おおむねこちらの予想通りと思う。特に、②予習・復習をしたか、③課題にきちんと取り組んだか、の2項目について、熱心に毎週練習してくる学生とあまり練習しない学生と半分ずつ位のように思うので、その辺りがよく反映されているといえよう。一方、気になったのは、⑤教員の話し方、⑨理解度の配慮、の2項目において“あまり思わない”と回答した学生が少数ながら存在する点である。今年度は課題の設定上、完全なるピアノ初心者（入学まで一度もピアノを弾いたことがない、入学前講習会も不参加）にとってややハードルが高いと思われる部分があるのは否めない。個人レッスンの時間設定的に、初心者にゆっくり丁寧に教えている時間がなかなか取れず、それでもなんとか必要な事柄は伝えようと必死になった結果、学生にとっては小難しいことを早口で話されて余計に困惑した、と受け止められたのかなと予想している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

通年科目なので一年を通しての課題設定がなされている。内訳は、ピアノの独奏課題が5曲、弾き歌い課題が7曲、計12曲以上を一年で合格することである。評価としては、前期および後期の各中間・期末の実技試験の結果に、受講態度や各課題への取り組みの姿勢などを含めて評価する。

4 授業改善の方法

結果をふまえ、限られた時間の中で、ピアノ初心者が少しでも理解できる方法を探っていきたいと思う。もちろんこれは私の推測の域を出ていないので、ある程度理解してついてきていると思わしき受講者にも、こちらの話がちゃんと伝わり理解できているか、十分注意しながら後期の授業を進めていきたいと考えている。あと、これは希望ではあるが、入学前ピアノ講習会において、初心者は必ず参加するよう新入生にご指示いただきたいということと(こちらが参加してほしいと思う学生ほど参加していない…ピアノを弾いたことがないため、弾くことの大変さがわかっていないからと思われる)、授業についてこれていない初心者の受講生に対するフォローの時間(夏季休業期間に補習とか、初心者のいるグループのメンバー人数を少なくしてレッスン時間を確保する…など)を設定していただけると、良いかなと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習 I (ソルフェージュ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55402ba・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 38名 **回答者数** : 36名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	36	-	-	-	-	-	-	36	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.44						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.81						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.03						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	13.9%	86.1%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.75						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	3	4.42						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			8.3%	30.6%	61.1%	-	-	-	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.53						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.36						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.64						

1 授業の概要、特徴等

音楽の基礎能力を養う。特に、歌う事を重視する。「人前で1人で大きな声で歌える様に」する。

2 アンケート評価結果に対する見解

色々工夫して授業を進めているが、なかなか全員に効果を感じて貰えるのは難しいと感じる。個人の能力に大きな差が在るので、それを如何に埋めるかが最大の課題だと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

音楽の基礎能力を習得するには 時間が掛かるので 教師も学生も根気強く継続していかなくてはならない。成績は 中間試験 期末試験 小テスト (2~3回) 平常点を点数化して判断している。単位認定に時間が掛かる学生には 何度もチャレンジ出来る体制が望ましい。(授業を受け続ける体制)

4 授業改善の方法

今以上に それぞれの力に配慮した授業を心がける。実技(作業)をもっと上手く活用して、飽きさせない。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 澤田 博 職名 : 教授 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 音楽Ⅱ 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 55310 授業形態 : 演習 受講者数 : 11名 回答者数 : 11名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	11	-	-	-	-	-	11	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.18					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.82					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.64					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い - やや 多い 63.6%	適切 27.3%	やや 少ない 9.1%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.09					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.55					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.91					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 9.1% やや 高かった 27.3%	適切 であった 54.5%	やや 低かった -	非常に 低かった 9.1%	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.45					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.55					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.64					

1 授業の概要、特徴等

1年次の「音楽Ⅰ」を基礎として、応用的な学習を進めるための科目である。ひきうたいでは伴奏形や和音を工夫する、既成の歌詞に自分のメロディと伴奏を付けて曲を創作する、手軽に持ち運べる楽器としてハーモニカ演奏に取り組むなど、現場での実践を見据えた授業を用意している。またハンドベル演奏では、協同することの重要性を体験する。楽譜を書く作業を通して楽譜の約束事や意味を確認し、今後自分が楽譜を読むときに、楽譜の情報を的確に把握できるようにする。選択授業なので、受講者は音楽に興味があり、熱心である学生が多い。

2 アンケート評価結果に対する見解

熱心な学生が多いはずであるが、評価は概して低い。②と③の回答は相反しているようであるが、「宿題をしてこないためその場で練習しなくてはならない」実態を表している。目標達成のためには更なる練習が必要であるが、(課題を多く与えてもこなせない)多数の受講者にとって少ない量に抑えている。⑨の結果は、受講者の受容の幅を適切に表していると考えられる。⑩については、新しい知識を与え、問題意識や関心を高める内容の授業を提供したが、結果として受講者の半数はそう受け取らなかった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

総体として見た場合、現場で音楽を実践するに必要とされる力と現に受講している学生の力は一致していない。そのため授業目標は、多数の受講者がほぼ達成できるレベルのものとならざるを得ない。成績については、シラバスで示した評価基準に従って認定しているので問題ないが、本来はここまで達成させたいという絶対的な基準を設定すべきであると考えている。

4 授業改善の方法

自由記述で「進むのが速い」という意見が複数あった。「たくさんのことを学ぶよりは、自分のペースでゆっくり学んで行きたい」ということであろうが、学生にとっていろいろなことを(例え今出来なくても)知る・取り組む期間は今は少ないことを思えば、そうそうペースを落とすわけにはいかないと考えている。関連知識を含めて、説明の多い(そのため早口にもなる)ことが理解を妨げている点があるようなので、後期は話す内容を限定することを試みたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 山口 直範 職名 : 准教授 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 社会的養護内容 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 53221ab 授業形態 : 演習 受講者数 : 65名 回答者数 : 57名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	57	-	-	-	-	-	56	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.70						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.11						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.71						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 1.8%	やや 多い 12.3%	適切 86.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.11						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.16						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.15						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 1.8%	やや 高かった 40.4%	適切 であった 57.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.04						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.19						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.04						

1 授業の概要、特徴等

社会的養護内容は演習科目であるため、テキストの節目にある演習課題を講義毎に1～2回実施した。主な内容は児童養護の場で不適切なかわりをする職員の事例を通して、自分ならどうするのか、また本来はどうあるべきかを検討するものである。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生からの評価は概ね平均値であった。学生から見れば可もなく不可もない評価のように感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

演習科目であるため、毎回実施する課題への取り組み姿勢の割合を多く評価した。したがって欠席が多い学生は演習への参加が少なくなり必然的に評価が下がることになる。

4 授業改善の方法

昨年まではグループワークにて事例研究を発表させていたのだが、今年度は取りやめた。グループ内で積極的に参加しない学生がいるため、一部の学生のためにグループ発表の評価が下がることを考慮しての対応である。しかし、事例発表をしなかったことにより事例研究のまとめ方や基本的な論文の書式(番号・符号・改行など)を学ぶ機会がなくなってしまった。来年度は簡略化してグループ発表を取り入れたいと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52121abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 53名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	52	-	-	-	-	-	53	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.81						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.25						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.70						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	とても 多い	とても 多い 5.7%	やや 多い 24.5%	適切 67.9%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 1.9%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.13						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.11						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.21						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 5.7%	やや 高かった 32.1%	適切 であった 62.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.98						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.13						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.04						

1 授業の概要、特徴等

小児の発達や発育、よくかかる疾患等を理解して、健康状態についての観察や評価の方法および基礎的な対応について学ぶ。また、保育現場で行われるであろう日常生活の養護について演習を行っていく。

2 アンケート評価結果に対する見解

この科目の平均評価は全体の評価と比べるとやや低かった。しかし、授業の進め方、総合評価における「そう思う」「ある程度そう思う」に回答した学生は、80%前後に推移している。このことからほぼ適切であったとも考えられる。しかし、授業のレベルが「高かった」「やや高かった」と回答した学生は約40%もいたことから、学生に分かりやすいようにしていく工夫が必要であったと考える。また、学生の授業態度では、予習・復習をしたかについて「そう思う」「ある程度そう思う」とした学生は約30%と少なく、予習・復習をする授業体制をもっと取り入れる必要があるかと考える。予習・復習をすることで、学生の学習の理解度が上がる可能性がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績の評価基準はまずは出席をすることであるが、66名が受講しましたが、1名は途中退学、3名は出席日数を満たさなかったために無資格となる。また、出席は満たしているものの1名は試験および追試験欠席で無資格となる。次の評価は、筆記試験と授業態度で行った。61名が出席日数を満たし筆記試験を受けるが、32名が再試となり、そのうち2名は再試験の手続きをせずに無資格となる。30名が再試験を受け、1名を除く全員が単位認定となる。

4 授業改善の方法

授業のガイダンス時には教科書の重要性と単位認定にも関わると説明をする。予習・復習を行なうために今回よりも多くの課題を提示しながら授業を勧める。演習への取り組みを多く取り入れた授業とする。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 浦田 雅夫 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 相談援助の基盤と専門職 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 1705 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	3	-	-	2	-	-	6	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.44						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.44						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.22						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 11.1%	やや 多い -	適切 88.9%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.56						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.33						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.11						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 22.2%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.33						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33						

1 授業の概要、特徴等

ソーシャルワークの知識、技術、価値(倫理)を学び具体的援助技術を獲得し、対人援助の専門職として活動を行なうための基礎的な資質を高めることが本講の概要である。福祉の各領域における専門職としての役割について具体的事例を中心に講義を行った。とくに、児童分野については重点的に行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

1時間目であり遅刻や欠席が目立った。予習復習についての項目が落ち込んでいるが、予習復習を講義で要請したことはなく、当該科目においては質問項目として成立していない感がある。一方、予習復習については、次年度より明確に学生に指示をしてみたいと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

レポート試験としたが、十分な成果があったとは言い難い。現場に出ていく最低限度の知識・技術をつけてほしいと願うばかりだが、十分な成果がなかった原因の半分はこちらにもあり、授業改善にむけて努力したい。

4 授業改善の方法

授業は、学生とともに作るものであると認識している。学生のモチベーションを高めるための授業導入をさらに吟味したい。そのためには、学生がわが身と感じる内容を考えなければならないと痛感している。福祉は、あらゆる生活問題を含んでいて、本来的に、どれ一つ他人事ではない。利用児者の立場に立ちきれる援助者を養成できるような授業内容にしたい。次年度より、いっそう双方向の授業展開を考えたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 村田 トオル **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 体育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55600abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 76名 **回答者数** : 66名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	65	1	-	-	-	-	-	66	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.56					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.86					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.23					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 3.0%	やや多い 6.1%	適切 86.4%	やや少ない 1.5%	とても少ない 3.0%	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.39					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.21					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.57					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 16.7%	やや高かった 7.6%	適切であった 68.2%	やや低かった 1.5%	非常に低かった 3.0%	無回答 3.0%
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.37					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.32					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.41					

1 授業の概要、特徴等

①自分が楽しむこと②友達を作ること③幼児教育の現場で実践できる内容④安全な用具の管理の4つを重視して、主にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、ドッジボールなどチームスポーツを中心にプログラムを組み立てている。ドリル練習などを終わるとすぐにリーグ戦あるいはトーナメント方式でゲームを行い、強いチームのみが勝つのではなく、弱くても勝てるようなルールに配慮している。また待機チームには、得点係や審判の役目を与え、学生全員がかかわるような授業運営とした。毎回、「今日の内容をどう幼児教育の現場で使えるか」を振り返りとして理解を深めるような工夫を試みた。

2 アンケート評価結果に対する見解

全項目において、全体平均値を上回った評価を得られたのは、まず主体である学生が「楽しい」「この種目面白そう」という内容に徹底したことがあげられよう。体育のイメージはとかく「教員からやらされる」「教員から罵声がとんでくる」というマイナスイメージが先行しがちであるが、「楽しくて、友達ができて、学べて、ついでに単位が取れる」という逆の発想から授業運営を行った効果があるものと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

幼児体育の現場で求められる種目のうち、基礎となる前転(前回り)の習得を目標達成とした。個人差はあったものの全員ができるようになり、子どもの前で見本ができるレベルにまで達したかと思う。成績評価は前転、後転の実技テストのほか、役割が与えられたときの積極性や勝利至上にならないようにするための配慮などの受講態度や安全配慮についての理解ができているかという要素も加味している。

4 授業改善の方法

改善について特段考えてはいないが、ルールとして終了後の清掃を徹底をしたい。種目については、学生が望むのは競技スポーツが多いので、今後はベタンク、キンボールなどのニュースポーツを取り入れ、勝敗だけにこだわらない種目を導入する予定である。スポーツフィールドとの棲み分けで非常に運営に苦慮する科目ではあるが、まずは保育者自身が運動は楽しいと思える内容としたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中村 恵 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育課程論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53001ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 82名 **回答者数** : 79名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	73	6	-	-	-	-	-	78	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.73						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.92						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.68						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 2.5%	やや 多い 27.8%	適切 69.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.00						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.91						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.04						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 13.9%	やや 高かった 34.2%	適切 であった 50.6%	やや 低かった 1.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.86						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.91						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.92						

1 授業の概要、特徴等

保育所・幼稚園における保育カリキュラムについて、編成の意義や留意する点等について理解する。授業の特徴は双方向的な協同学習を実施していることである。随時、C-Learningシステムを利用して、学生の個々の意見を共有し、授業に反映させるようにしている。テキストの内容を学ぶだけでなく、自分ならどうするかと言った観点も大切にしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

予習復習が必要なように、課題を設定しているつもりであるが、なかなかそれが浸透していないようで、ほとんどの学生が授業以外での時間に学習時間をとっていないので、以下に授業以外の時間に学習時間を設けることが必要な課題提示を行うかが課題だと感じている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育課程について概ね理解ができたかどうかは、定期試験の内容と小レポートで評価している。それぞれを総合的に評価して、60%以上の点数を得ていたら単位認定している。

4 授業改善の方法

定期試験での合格率が低いように思うので、再試ではなく、定期試験で合格できるように、もう少し内容について噛み砕く必要があるように思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 大城(黒田) 弓恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53140ac・bb・cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	15	-	-	-	-	-	14	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均												
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.20																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.67																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00																	
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>33.3%</td> <td>66.7%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	-	33.3%	66.7%	-	-	-					
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
-	33.3%	66.7%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.13																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.07																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.33																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>13.3%</td> <td>33.3%</td> <td>53.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	13.3%	33.3%	53.3%	-	-	-					
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
13.3%	33.3%	53.3%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.07																		
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.20																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33																	

1 授業の概要、特徴等

この授業は弾き歌いの技術習得を目標としている。授業は45分ずつ個人レッスンとグルーブレッスンに分けて構成されている。1回生で学んだカデンツを使った伴奏を用いて、こどもの歌を弾き歌いできるようになることが大きな目標で、EP教室では歌唱指導の実践も行う。

2 アンケート評価結果に対する見解

この授業は個人レッスンなので、各学生のレベルを配慮して授業を進めていきやすいと思う。①②③の回答に関しては個別であることで、自分で予習復習(練習)をしなくてもその場で教えてもらえばいいと考えている学生も少なからずいる。しかしそういう学生の中には実際に自分1人だけでは練習出来ない子もいるので、読譜力がつくような指導を心掛け、どういう風に何をどうしてきたらよいか明確に理解してもらえるよう努めなくてはならないと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

弾き歌いの技術習得を目標とし、授業では課題曲の練習成果を聴き、暗譜で大きな声で正しく歌えたら合格とする。期末試験までに課題曲数をクリアし、試験を合格した学生に対して単位認定をする。成績は実技試験と平常点、出席状況を加味し評価する。

4 授業改善の方法

学生のピアノのレベルは様々であるため、常に学生個人と向き合い、ピアノを苦手としている学生にも理解してもらえるように努力しなければならない。またピアノを学んできた学生にとっては物足りない授業にならないように幅を持たせた達成目標の設定も検討してはどうかと思う。実用レベルになるまでには学生自身の練習が必要不可欠であるので、練習の必要性や練習の仕方を習得してもらえるよう工夫していきたいと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53140abcd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	9	1	-	-	-	-	11	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.55	[Progress bar]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.82	[Progress bar]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.91	[Progress bar]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い 18.2%	やや 多い 27.3%	適切 54.5%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.91	[Progress bar]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	5	4.64	[Progress bar]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.55	[Progress bar]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった 36.4%	やや 高かった 27.3%	適切 であった 36.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.82	[Progress bar]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.64	[Progress bar]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.64	[Progress bar]					

1 授業の概要、特徴等

個人レッスン(45分)、EP教室での集団レッスン(45分)の2つの形態で行う。実際の保育現場で実践できるよう歌唱+ピアノを学ぶ。個人レッスンの為、各自のレベルに応じた細やかな指導をすることができる。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業レベルが高い…と感じている学生が多く見受けられた。実際の保育現場では授業で取り上げている曲よりも更に難しい曲が要求される機会も多い為、現在のレベルは、弾けるようになってほしい。学生のピアノレベル向上を目指し指導に取り組みたい。積み重ねが大切なので、1回生からの長期スパンで取り組みたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲数を終了すること。その他、授業態度・出席状況、定期試験での演奏等をふまえて総合的に判断する。

4 授業改善の方法

ピアノ上達は、日々の練習の積み重ねである。授業内では個々のレベルに沿った細やかな指導、繰り返しの反復練習を徹底したい。授業外での練習にも意欲的に取り組むよう指導してゆきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53140ae・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科 ・ コー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.56						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.56						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.33						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	-	100.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.11						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.89						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	11.1%	77.8%	11.1%	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.89						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.78						

1 授業の概要、特徴等

童謡の弾き歌い *大きな声で歌う。 *カデンツを用いて伴奏付をする。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生が興味をもって課題に取り組めるよう、曲の成り立ちや言葉の解説など色々な言葉かけをしていますが、なかなか予習や復習に結びつかないのが現状です。学生がこの曲が弾きたいと意欲を持てるよう更に努力をしたいと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

決められた曲数を全て合格し、課題となる曲を試験で弾き歌いする。大きな声で歌えたか。演奏にミスはなかったかを複数の講師で採点し平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

学生に、時間のかかるピアノの練習をいかに興味をもたせてさせるか。一人に対して、複数の講師が関わって、EP教室もうまく活用しながら、授業を行いたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53140be・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	11	-	-	-	-	-	11	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価						
			■ 学生の評価平均						
			1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.64						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.45						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.55						
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答
			-	9.1%	90.9%	-	-	-	
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.91						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.91						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.82						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった		非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答
			9.1%	27.3%	63.6%	-	-	-	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.64						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.82						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.82						

1 授業の概要、特徴等

保育の現場で必要なこどもの歌を弾き歌いできるようになり、またこどもの歌の指導法について学んでいく。授業は個人レッスン45分とEP教室でのグループ学習45分で構成される。

2 アンケート評価結果に対する見解

ほとんどの学生が、課題の量や内容について適切と答えているので、それが受講態度に反映されたと思う。予習・復習、課題(宿題)への取り組みが、ほぼよく努力されていた点は、評価したい。また、ほとんどの学生が自分の将来に役立つと感じてくれたことは、前期の成果と受けとめ、後期の授業につないでいきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題表にしたがい、必修5曲・リズム曲2曲を含んで合計12曲以上の合格をめざす。正しい音程で、またはっきりとした発音で、しっかり声を出せるように、止まらず正確に暗譜で弾けることで、合格とする。試験は、合格した曲の中から1曲を演奏する。

4 授業改善の方法

課題の量や内容、授業レベルへのアンケート結果を見ると、課題内容が学生にとってほぼ適切なものだったと読み取ることができるが、より実力をあげていく為には、常に内容を吟味して、学習意欲を高め達成感につながるものとしていきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 石田 伸子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・身体表現Ⅱ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53190ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 62名 **回答者数** : 49名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	48	-	1	-	-	-	48	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.94						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.02						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.76						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.0%	やや 多い 16.3%	適切 79.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 2.0%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.76						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.63						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	3.88						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 2.0%	やや 高かった 18.4%	適切 であった 75.5%	やや 低かった 4.1%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.82						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.92						

1 授業の概要、特徴等

身体表現は、幼児の心と体を開放し、創造性を引き出す大切な活動です。幼児の発達の筋道を理解し、興味・関心を探り、遊びの内容や活動を深め、表現に繋げていける感性と指導力を身につける必要があります。そのために保育者自身が体を動かし、表現を楽しむことが大切です。身体を自由に動かし、工夫して表現できるよう、身体表現の基本から創作まで理論と実技で学習します。感性を豊かにし、驚きや発見、経験したことなどを身体で表現し、自分が思ったことを恥ずかしがらずに動きで表現できるようにする。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生が理解して、体を動かすことの心地よさを味わいながら、主体的に体を動かせるよう、ともに表現を楽しむ指導をしてきたが、十分に伝わっていないことを残念に思う。ただ学生の率直な評価として真摯に受け止めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

体を動かすことが楽しくなり、新しい動きを考えたり、体全体で表現できるようになったか。またグループで話し合いながら、ストーリーに沿った内容を多様な動きを取り入れて表現できたか。子どもの思いを受け止め、遊びや活動を深めるにはどうすればよいか。など日常の表現活動、理論の理解、グループでの発表を総合して単位認定した。

4 授業改善の方法

積極的に表現する学生もいるが、体を動かさなれていない学生が多いので、簡単な動きや新しい音楽取り入れ、体を動かすことが楽しくなるようにしていきたい。身体表現に必要な具体的な場面を取り入れながら、手具や用具を活用して、創造的な動き、大きな表現につなげていきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 片岡 三和 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 幼児理解 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52220ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 69名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	56	1	1	-	-	-	56	-	1	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	3.69					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.93					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.79					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	とても 多い 6.9%	やや 多い 3.4%	適切 89.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	-	4.62					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.33					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.74					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 3.4%	やや 高かった 15.5%	適切 であった 81.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.34					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.53					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.48					

1 授業の概要、特徴等

今期は3つの科目を展開した。 幼児理解2回生 保育者論1回生 保育内容総論1回生 3つの科目であるが、内容については、保育者を目指すものが 1、どんな思いで乳幼児の前に立ち(保育者論1回生) 2、乳幼児たちをどのように理解し受け止め、(幼児理解2回生) 3、どのような保育を展開するのか(保育内容総論1回生)を窓口を3つとしてそれぞれに展開してきた。その中のひとつ、幼児理解について考察を行う。 幼児理解は、上記の科目と密接につながり、その根底に位置するものである。

2 アンケート評価結果に対する見解

今期もひたすら、乳幼児の前に教師として立つときの思いと同じように、一人ひとりの今を認めることから始めた。学生には、今それが一番必要なことと強く感じている。諦めず、働きかけることが結果につながると信じてきた。その本気の思いの一端は伝わっていることを実感した。 もうひとつ、「もっと厳しく」との声もあるが当短大の状況の中では、ここぞという時に反応できない場合以外はもう少しおらかな受容こそが必要だと本気で思っている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標としてもった、乳幼児の前に立つ意識、乳幼児にかかわる心構え、教師の影響力等に対して確かに心を動かせたと感じている。成績評価基準としては、人として、教師として『乳幼児』と正しく向かい合うことに気付けたかを大切にしたい。

4 授業改善の方法

今期は話し続ける講義より間に何かを入れ、語った講義を裏付けたり、確かめたりしてゆっくり進むことにした。 授業中の態度については、片岡三和からみた態度としてはまだまだ許容できるものであり、私流の指導の下、待ち続けたいと思っている。向き合う大人(片岡三和)が「本気で分からせようとしているのか」「人権を認めることからスタートできているのかどうか」を常に意識しながら、自分を反省し進んだ。お互いに責任を持ち、頭脳レベルとは別の自分たちの心のレベルの高さに気付いてほしい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 松岡 美穂子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : コミュニケーションの基本 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7235 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	6	1	-	-	-	-	7	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.29					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.43					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.86					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い - やや多い -	適切 100.0%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.71					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.57					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.43					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 28.6% やや高かった -	適切であった 71.4%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.57					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.71					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.57					

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーションの基本で、大切にしたい事は、自己覚知し相手に自分自身を知ってもらうこと。そして、相手を思いやり相手を理解するためのグループワークです。自分自身の大切にしている事、大好きな本・映画・場所等を相手にわかりやすく伝えるトレーニングです。相手の話を好奇心を持って積極的な傾聴はプレゼンの際、質問時に考えることを演習した。相手の良いところを見つけたすポジティブな思考の演習を実施した。

2 アンケート評価結果に対する見解

少人数であったが、グループワークも2グループに分かれ活発に議論できた事、自分自身のお勧めテーマでは、学生同士がお互いを再発見できたこと成果を感じていた事、講師と学生とのコミュニケーションをしっかりと取るための信頼関係づくりが今回は評価結果と考える。また、自分自身に自信のない学生が多かったが、自分自身を知り少しの自信と勇気をこの講義で提供できたのであれば幸いである。相手のいいね！を理解できた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

自分自身を理解し相手を知る。相手を思いやり、自分自身をも大切にするためのグループワークでの役割や思いを言葉・行動で表現する発表、プレゼンテーションによる表現力など演習による評価。また授業中の態度、参加への積極性の評価。そして、全体を通してのテスト形式による知識の理解力としての評価を総合しての評価とした。

4 授業改善の方法

今回、レジュメ量が少なかつたため学生の振り返りとして材料が不足していたのではと考える。自分の思いを言葉で伝える・また相手の気持ちを推し量る共感に対しての意見を述べる演習時間を増やす方が講義の中での小さな一つ一つの評価が、成功体験となり実習において意味深いものとなるのではないかと考えるため、改善課題としたい。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中西 雅子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 人体の構造と機能 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7430 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	6	1	-	-	-	-	7	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	1	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.14						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.86						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 14.3%	やや 多い 28.6%	適切 57.1%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.43						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払って いましたか	4	4.43						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.14						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 57.1%	やや 高かった 42.9%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.29						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることが できたと思いますか	3	4.29						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるもので あったと思いますか	3	4.43						

1 授業の概要、特徴等

人体の組織について、解剖生理学的な観点から授業を行った。配布資料および授業スライドには図やイラストを多用し、理解しやすいように務めた。また、興味を深めてもらう目的で、日常生活における行動や病的状態との関連についても解説している。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業全体を通して、ぜひ理解してもらいたい内容ばかりであり、表現を易しくするなど簡単な言葉を使うよう心がけたが、学生にとっては難し過ぎたようである。私語や遅刻はなかったが、居眠りは非常に目についた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

全範囲をカバーできたと思うが、理解が伴わなかったのは非常に残念である。成績の評価は、出席ならびに前期試験で行った。試験の形式は、毎回の授業後に行っていた問題からの出題であったため良く出来ていたが、おそらく理解はできていないと思われる。

4 授業改善の方法

家での課題やレポート等を与えて、自ら勉強する機会を増やすしかない。

教員による授業アンケート (2012年度 前期)

教員名 : 中村 麻子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 人体の構造と機能 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7430 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	6	1	-	-	-	-	7	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.14						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.86						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 14.3%	やや 多い 28.6%	適切 57.1%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.43						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	3	4.43						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.14						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 57.1%	やや 高かった 42.9%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.29						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.29						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.43						

1 授業の概要、特徴等

人体の構造および機能について、それぞれ解剖学的知識と生理学的知識を教えることによって、理解してもらった。講義スライドでは、イラスト等と多用し、眼で見ても理解できるように配慮した。また、より深い理解をしてもらうために、社会における実例等も多く紹介した。

2 アンケート評価結果に対する見解

結果として、多くの学生にとって難しい講義内容であったようであるが、それについて本専攻科において、「人体の構造と機能」という授業がどのような意味合いを持つものであるかといった、根本的なところをもう少し考える必要があったかもしれない。医学部学生における解剖生理学の知識を単純に分かりやすく講義するだけでは、学生の理解は不十分であったと考えられる。実際に学生、あるいは専攻科の求める授業内容がなんであるかをもう少し明確にしたうえでの授業目標が求められる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

各日予定している授業内容については時間内に講義を終えることができた。また、授業後に小テストを行っていたので、その日の授業のポイントを復習することができたかと思う。成績評価については、テストの点数および出席で行ったが、全員問題なかった。一つに、試験問題を小テストからの出題としたため、学生が十分に対策をとれたからだと思われる。実際の理解力に関しては、不明である。

4 授業改善の方法

上記2にも述べたように、実際に学生、あるいは専攻科の求める授業内容がなんであるかをもう少し明確にしたうえでの授業目標設定をすべき。

